県緑化推進委員から感謝状

緑の募金に組合員の善意を寄付

全安組合
県交通施設業協

千葉県交通安全施設業協同組合（白鳥和重理事長）は県緑化推進委員会（理事長・森英介衆議院議員）から、感謝状の贈呈を先月31日受けた。同委員会の緑の募金への寄付行為に対するもので、茂木和仁副理事長に感謝状が手渡された。

寄付行為は、同組合が企画したチャリティーゴルフコンペの際に会員より寄った善意を緑の募金に寄贈したもの。「郷土緑化の重要性を深く認識し、緑の募金活動に尽力した功績は誠に多大であると」認められた。

感謝状は、同委員会の25年度定時総会の席で、国会と重なり出席のかなわなかった森理事長に代わり、副理事長の齋藤萬祐県森林改善協会顧問が贈呈。感謝状を手にする茂木副理事長と齋藤副理事長による記念の写真撮影も行われた（写真）。

当日は5団体、1個人に感謝状が贈呈された。林和雄白子町長をはじめとする県内自治体の幹部のほか、来賓として総会に招かれた市議会議長会の佐藤新三郎船橋市議会議長や、県農林水産部の麻生恵部長、並木康雄森林課長、野村浩北部林業事務所長、池田伸二中部林業事務所長、白石勇一南部林業事務所長、環境生活部、県土整備部、教育庁の各関係室長らから、盛大な拍手が送られた。

総会では議事に先立ち、副理事長で県町村会副会長の藤見一弘長南町長が森理事長のあいさつを代読。表彰者の日頃の活動に深く敬意を表してから、計画した事業を概ね順調に実施すること、東日本大震災の被災地の再生に一定の成果を挙げることができたことを示し「これもひとえに、会員、企業・団体、県民の協力の賜物であり、心から感謝する」とのメッセージを伝えた。

同委員会は県や市町村、委員会の目的に賛同して入会した団体などで構成。緑の募金運動を推進し、それを原資として県内各地の緑化活動や森林整備活動の推進、次代を担う緑の少年団活動に対する支援などに鋭意取り組んでいる。

県交通安全施設業協同組合は25社で構成し、安全、事故抑制という社会的使命の達成に向け、組合員と賛助会員が一丸となり、各種事業活動を展開。県内主要道路を対象としたカーブミラー・案内標識等の清掃ボランティアや、春と秋に行っている親睦交流などの機会を捉えて募金の寄付行為なども例年行っている。